

OWLSPOT THEATRE ANNUAL REPORT 2020

令和2年度 あうるすぽっと 事業報告書
（豊島区立舞台芸術交流センター）

<https://www.owlspot.jp/>

あうるすぽっと

豊島区立舞台芸術交流センター

OWLSPOT THEATRE

—

東京都豊島区東池袋4丁目5番2号

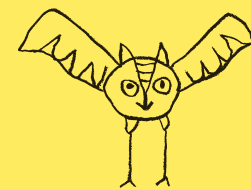
ライズアリーナビル2F・3F 〒170-0013

4-5-2 2F・3F, HIGASHI-IKEBUKURO,
TOSHIMA-KU, TOKYO, 170-0013, JAPAN

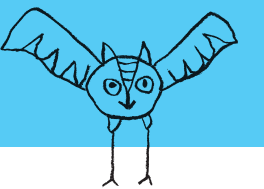
—

TEL 03-5391-0751

FAX 03-5391-0752

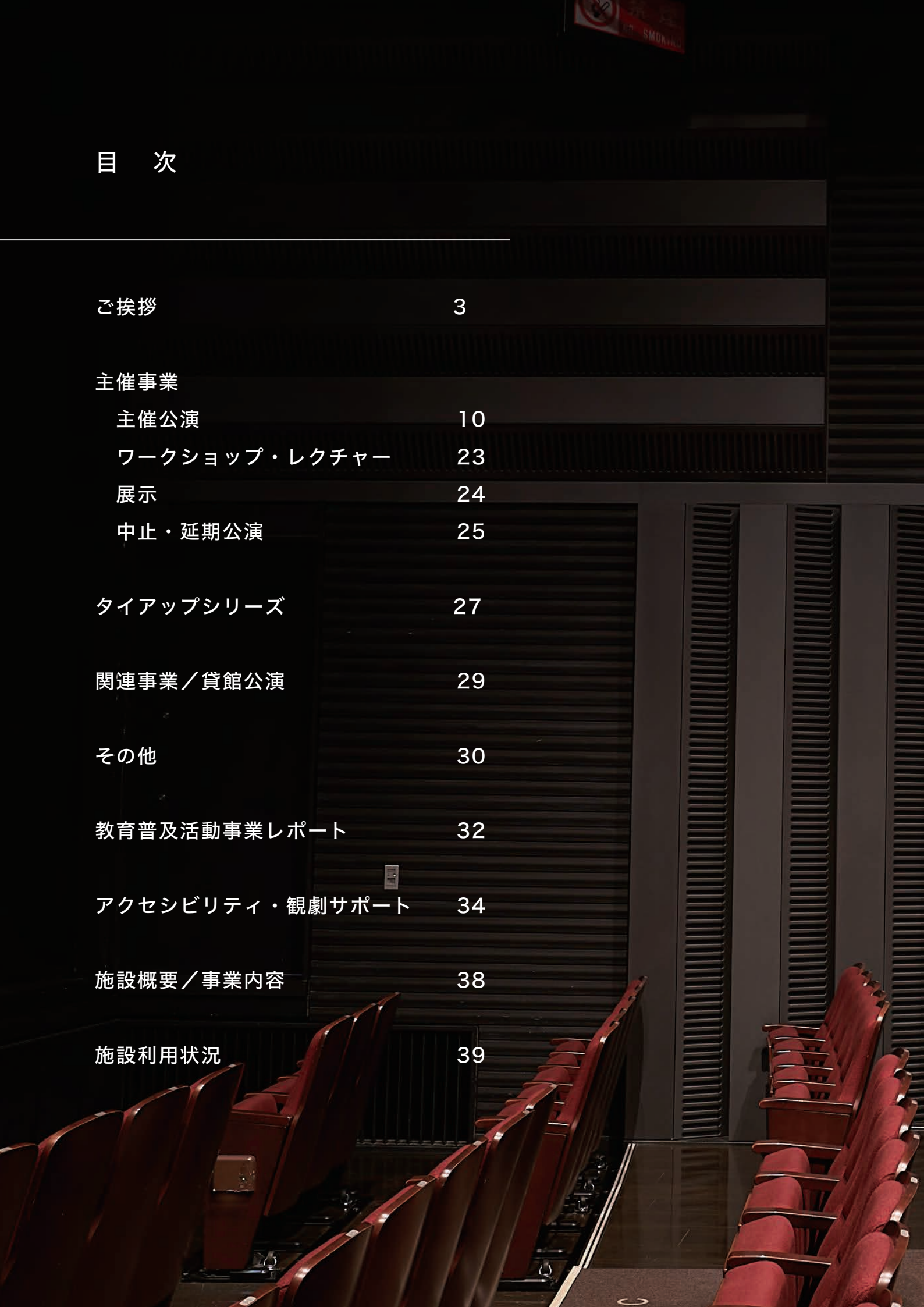


あうるすぽっと
OWLSPOT THEATRE



あうるすぽっと
OWLSPOT THEATRE





目次

ご挨拶	3
主催事業	
主催公演	10
ワークショップ・レクチャー	23
展示	24
中止・延期公演	25
タイアップシリーズ	27
関連事業／貸館公演	29
その他	30
教育普及活動事業レポート	32
アクセシビリティ・観劇サポート	34
施設概要／事業内容	38
施設利用状況	39

ご挨拶

この原稿を書いている現在、東京は「緊急事態宣言」下にあります。2020年の春の記憶が蘇ります。あの時は「この事業報告書が皆様のお手元に届くころ、世界がどのような状況にあるのか。想像することができずにいます」と書きました。想像が出来なかったのか、想像することを無意識に拒んだのか、今の状況を予想することはできませんでした。

あうるすぽっとはこの1年、7本の舞台公演、6本の映像配信、そして2本のワークショップ等を実施し、6事業をやむなく中止・延期としました。調整を続けながら、つねに「文化の灯を消さない」ことを心に刻んで…。

春、5月の『テンペスト～はじめて海を泳ぐには～』は国際共同制作作品ということもあり延期となりましたが、夏の主催事業は、「おうちで見よう！あうるすぽっと2020夏」と題し、子どもに見せたい舞台 vol.14 おどる絵本『じごくのそうべえ』、『絵本のじかんだよ！』、『おはなしの絵空箱』、みんなのシリーズ第五弾『能でよむ～漱石と八雲』、加えて例年のホワイエ展示を参加型企画『おばけのパレード～真夏のにぎやかな百鬼夜行～』とし、この5事業全てを無料配信しました。10月以降の秋シーズンの主催事業は、客席数こそ半減となりましたが、全て実施しました。基本的な方針は二点、「命を守る」、「文化の灯を消さない」でした。ただ、レクチャーやワークショップなど普及啓発系の事業でいくつか中止としたものもありました。

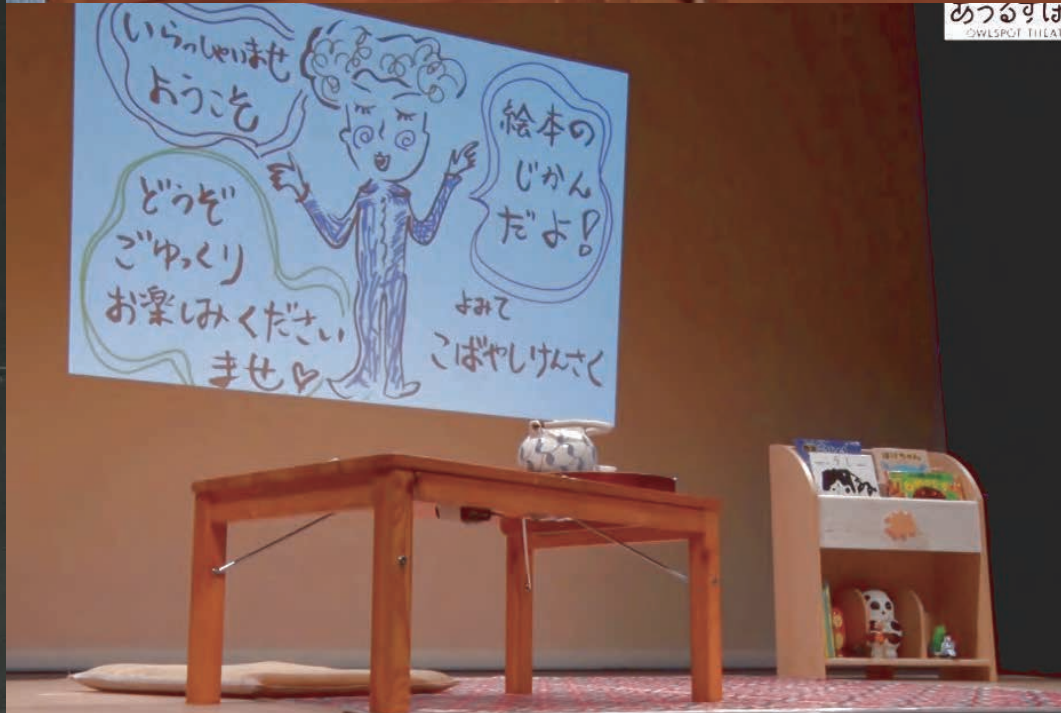
そして冬。感染者が急増し、講談師 神田伯山 新春連続読み『寛永宮本武蔵伝』完全通し公演 令和三年 は初日前日に開催延期を決定しました。今年度は、忍耐、工夫、そして決断の連続で、多くの迷いもありました。新たなものを生み出すことが出来ているのかどうか。検証するにはもう少し時間がかかりそうです。

今回の報告書では、中止・延期となった主催事業もあえて記録として残しました。さらに近年、力を入れている教育普及活動2事業のレポートを掲載しました。学びの場、鑑賞の場を拡大していく取組として展開している事業です。こちらは今後も継続していきたいと思います。

5月恒例の区民シリーズが実施できなかったのは残念な出来事でしたが、タイアップシリーズ5公演、貸館7公演を実施することが出来たのは、公演制作に携わるすべての方々、そして区民をはじめとする観客の皆様の支えがあったからこそだと感じています。

最後になりましたが、報告書の発行にあたり、助成等支援をいただいた関係機関やご協力をいただいている地域の皆様、何よりご来場ご参加いただいたお客様方皆様に深く感謝申し上げます。

令和3（2021）年3月
あうるすぽっと





撮影：石川純



撮影：bozzo



撮影：橘蓮二



撮影：石川純



撮影：bozzo



撮影：橘蓮二



撮影：橘蓮二



撮影：橘蓮二



撮影：橘蓮二



撮影：橘蓮二



撮影：石川純



撮影：石川純



主催事業

主催公演

ワークショップ・レクチャー

展示

中止・延期公演



主催公演 1（配信）

おうちで見よう！あうるすぽっと 2020 夏

としまアート夏まつり 2020 子どもに見せたい舞台 vol.14

おどる絵本 『じごくのそうべえ』

毎夏、大人も子どもも一緒に楽しめる大好評の同シリーズ最新作は、収録オンライン配信を実施。今年は 30 年にわたるベストセラー落語絵本を舞台映像化した。監督を手掛けるスズキ拓朗・青山健一が、劇場のみならず、あうるすぽっとの施設内で撮影。施設をじごくの様々な場面に見立てることで、「じごくめぐり＝劇場探検」の要素も含ませ、自宅にいながら物語を通し、あうるすぽっとを身近に感じてもらう仕掛けも盛り込まれた。ワクワク・ドキドキする臨場感あふれる子どもも楽しいおとな劇を、おうちで楽しめる良質な映像作品となった。期間限定・無料配信。

出演

佐藤誓
香取直登
柏木俊彦
鈴木伽実
清水ゆり
ジョディ
ジントク
小林らら
スズキ拓朗

スタッフ

原作：童心社「じごくのそうべえ」作：たじまゆきひこ
桂米朝・上方落語・地獄八景より
監督：スズキ拓朗 青山健一
演出・振付：スズキ拓朗
撮影・編集・アニメーション：青山健一
美術：u-rec-a
照明：齋藤茂男
音楽：清水ゆり
音効：小笠原康雅＋ OFFICE my on
衣裳：竹内陽子
演出助手・助監督：神野真理亜
舞台監督：筒井昭善



■公演 DATA

配信日程：2020 年 8 月 8 日（土）～ 31 日（月）
再生回数：6,077 回

企画制作：あうるすぽっと
共催：としま文化創造プロジェクト実行委員会（豊島区 豊島区教育委員会 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン NPO 法人芸術家と子どもたち 公益財団法人としま未来文化財団）
合同会社モダンタイムス
主催：公益財団法人としま未来文化財団（あうるすぽっと） 豊島区
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会



主催公演 2（配信）

おうちで見よう！あうるすぽっと 2020 夏

『絵本のじかんだよ！』

0 歳から入場できるあうるすぽっとの人気シリーズ、読み聞かせ公演『絵本のじかんだよ！』は、収録オンライン配信を実施。読み手は NHK E テレ「みいつけた！」のオフロスキーでおなじみの小林顕作。今年は WEB サイトで皆様から読んで欲しい絵本を募集し、その中から顕作さんが選んだ絵本を読み聞かせした。通常公演と同じスタイルで収録し、読み聞かせはもちろん顕作さんによるギター演奏も盛り込んだスペシャルな配信をお届け。好きな時間に好きな場所で映像を体験できるので、家族一緒に何度でも楽しめる作品となった。期間限定・無料配信。

出演

小林顕作



スタッフ

照明：篠木一吉
音響：小笠原康雅＋ OFFICE my on
舞台監督：鈴木章友
照明部：藤田佳昭 伊藤翔大 石井大輔
音響部：鈴木三枝子 青谷保之
演出部：木村光晴
撮影・編集：たきしまひろよし
（PLASTIC RAINS）



■公演 DATA

配信日程：2020 年 8 月 9 日（日）～ 23 日（日）
再生回数：1,863 回

協力：株式会社グラート 西原栄 有限会社創光房
主催：公益財団法人としま未来文化財団（あうるすぽっと） 豊島区
助成：令和 2 年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業



主催公演 3 (配信)

おうちで見よう! あうるすぽっと 2020 夏

としまアート夏まつり 2020

育てる展示『おばけのパレード～真夏のにぎやかな百鬼夜行～』

0歳から高校生までを対象に、子どもたちから自由な「おばけの絵」を募集し、200体以上集まった絵を使って「百鬼夜行」をテーマにしたアニメーションを作成・配信した。おばけが登場する口ケ地として、豊島区内の施設や企業にも撮影協力を依頼し、地域の協力により作品が完成できた。YouTubeで視聴すれば、ストーリーを選択して進むことが出来るため、子どもたちの記憶に残る体験、地域の人たちにとって馴染みのある風景、個性豊かなおばけたちが練り歩く姿は、大人には懐かしい気持ちを思い出す体験となったという感想も多く見られた。集まった絵は、子どもに見せたい舞台 vol.14 おどる絵本『じごくのそうべえ』や『おはなしの絵空箱』にも登場。無料配信中(2021年3月現在)

出演

子どもたちが
描いたおばけたち

スタッフ

アニメーション: 有限会社ヒゲプロ



■ 公演 DATA

配信日程: 2020年8月11日(火)～通年配信

再生回数: 9,478回(3月20日現在)

主催: としま文化創造プロジェクト実行委員会(豊島区 豊島区教育委員会 NPO法人アートネットワーク・ジャパン NPO法人芸術家と子どもたち 公益財団法人としま未来文化財団)

助成: 令和2年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

撮影協力: アニメイト池袋本店 威光山 法明寺 WILLER EXPRESS 一般社団法人としまアートカルチャーまちづくり協議会 株式会社 そごう・西武 西武池袋本店

株式会社大勝軒 株式会社東急ハンズ 池袋店 株式会社東武百貨店 池袋本店 切手の博物館 グランドシネマサンシャイン 公益財団法人古代オリエント博物館

珈琲専門館 伯爵 池袋東口店 サンシャインシティ ジュンク堂書店池袋本店 巣鴨地藏通り商店街振興組合 すずめや 雑司ヶ谷 鬼子母神堂 タカセ洋菓子株式会社

東京建物 Brillia HALL 特定非営利活動法人いけぶくろ大明(みらい館大明) とげぬき地蔵尊高岩寺 豊島消防署 はや川提灯店 老眼めがね博物館(五十音順)

主催公演 4 (配信)

おうちで見よう! あうるすぽっと 2020 夏

『おはなしの絵空箱』

子どもたちからオリジナルの「おはなし」を募集。応募24作品をオムニバス形式の「みどり」「きいろ」「あか」の3本の短編集にし映像化した。“生まれる前のお腹のなかにいる記憶”など、鮮やかな世界を表現した子どもたちの、今しか書けないまばゆい「おはなし」が集まった。その作品を俳優のともさと衣さんが読み、即興で斎藤ネコさんのヴァイオリンの演奏、熊谷拓明さんの踊りが加わり、そしてアニメーションを付け、子どもたちの「おはなし」を創り上げた。映像の配信ならではの、創造の「おはなし」の旅を家族でも楽しめたことだろう。期間限定・無料配信。

出演

ともさと衣(読み手)
斎藤ネコ(演奏)
熊谷拓明(踊り)

スタッフ

作: 「おはなし」を応募してくれた子どもたち
ステージング: 熊谷拓明
編集・アニメーション: 有限会社ヒゲプロ
撮影: 小沢英男
照明: 篠木一吉
音響: 小笠原康雅+ OFFICE my on
舞台監督: 鈴木章友
照明部: 藤田佳昭 伊藤翔太 石井大輔
音響部: 鈴木三枝子 青谷保之
演出部: 木村光晴



■ 公演 DATA

配信日程: 2020年8月17日(月)～9月7日(月)

再生回数: 2,769回

【みどり】

「夏のだいぼうけん」(呂南 アミナ凛)
「あたしは知ってる」(まーちゃん)
「ソフトクリームを買いに」(あやか)
「つい最近の事です。おばけのバケくんがいました。」(あさ)
「ストライダーが好きなバケくん。」(さな)
「ぼくのであった、どうぶつのはなし」「もぐらのいえではなし」(うらかわ ひかる)
「オバケのこわごわ作戦」(あべ ゆうと)
「かぜきょうちえん」(けとりん)
「ばけけのおたんじょうび」(ひこっぺ)
「ひびとママに会おうまえ」(うらかわ ひかる)

【きいろ】

「電気のおでん」(しばと なぎ)
「だまされる男」(さきっちー)
「女の子の ふしぎな大冒険」(さな)
「昔、ある森の奥に、双子のガラスのきょうだいがありました。」(中島なな実)
「レジェバの冒険」(アラキ☆カノン)

【あか】

「そらくん はなちゃん でんしゃにのっておでかけ」(石塚真子)
「はとばす」(としや)
「そらはなのおかし作り」(ななお)
「ふしぎなたねやさん」(灯里)
「(自分)」(いがらし こはな)
「まよなかおばけ」(みーりー)
「うまのぼうけん」(ゆり)
「花柄のひらひらとしたブラウスから」(春)
「3しょくのじ」(ながたゆうま)

主催: 公益財団法人としま未来文化財団(あうるすぽっと) 豊島区

助成: 令和2年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業



撮影：川面健吾



撮影：石川純

主催公演 5（配信）

おうちで見よう！あうるすぽっと 2020 夏

みんなのシリーズ第五弾

『能でよむ～漱石と八雲～』

あうるすぽっとでは、舞台芸術に触れる「初めの一步」として、子どもから大人まで誰もが一緒に気軽に楽しめる観劇サポートを付けた「みんなのシリーズ」を展開している。第五弾となる今回は、収録配信として実施。字幕や音声ガイドなどアクセシビリティを充実させた編集を施し、ご自宅で多くの方に鑑賞いただける取り組みを行った。当劇場のほど近く、夏目漱石の小説「こゝろ」の舞台にもなった豊島区の雑司ヶ谷霊園には、明治時代を代表する二人の文豪、夏目漱石と小泉八雲のお墓があり、本企画は、ここからスタート。漱石と八雲が愛した「能」というフィルターを通すことで浮かび上がる名作をトークを交えながらリーディング形式で上演を行った。公演配信に先駆け 7 月 26 日には、安田登、木ノ下裕一、ゲストにいとうせいこうを迎え、手話通訳付きのスペシャルトークの生配信を行った。

演目
『夢十夜』より「第一夜」 原作：夏目漱石
『吾輩は猫である』鼠の段 原作：夏目漱石 ※手話付上演
『破られた約束』 原作：小泉八雲
※字幕・音声ガイド付にて配信

出演
安田登 玉川奈々福 塩高和之
聞き手：木ノ下裕一（木ノ下歌舞伎主宰）
スペシャルトークゲスト：いとうせいこう

スタッフ
照明：松本永
音響：田辺武
舞台監督：岡田直哉
撮影：飯野哲郎 飯野高拓
手話指導：米内山陽子（『吾輩は猫である』鼠の段）
音声ガイド：持丸あい
宣伝美術：菅原麻衣子

企画制作：あうるすぽっと
協力：特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク (TA-net) Palabra 株式会社
主催：公益財団法人としま未来文化財団（あうるすぽっと） 豊島区
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

主催公演 6

朗読劇『日の名残り』

2017 年ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロの代表作「日の名残り」を朗読劇として上演。兵庫、山形、岩手へツアーを行った。本作は英語圏最高の文学賞とされるブッカー賞を受賞し、2 つの大戦から戦後にかけてのイギリスを舞台に、貴族の屋敷に仕えた執事の人生を静謐な言葉で丁寧に綴っている。この物語世界を壊さず、何役もこなす芸達者なキャストを配して脇をかため、武骨で実直に自分の使命を全うする主人公の、自負とプライド、悲哀と後悔をあぶりだした。また、役者から発せられる生きた言葉によって、小説世界を立体的に描き出すことができた。

出演
眞島秀和
大空ゆうひ／小島聖（W キャスト）
マキノノゾミ
桂やまと／ラサール石井（W キャスト）

スタッフ
原作：カズオ・イシグロ（早川書房刊）
訳：土屋政雄
上演台本・演出：村井雄
美術：竹邊奈津子
照明：杉本公亮
音響：清水麻理子
衣裳：日下和則
舞台監督：今野健一
宣伝美術：タカハシデザイン室
イラストレーション：山口洋佑
プロデューサー：根本晴美 馬場順子

企画協力：早川書房
共催：石井光三オフィス
主催：公益財団法人としま未来文化財団（あうるすぽっと） 豊島区 東京芸術祭実行委員会
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会
コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金 (J-LODlive) | VIPO 特定非営利活動法人 映像産業振興機構



■ 公演 DATA
日程：2020 年 9 月 30 日（水）～ 10 月 4 日（日）
会場：あうるすぽっと
公演回数：6 回（客席数 143 回）
入場者数：774 名
上演時間：約 2 時間 15 分（休憩 10 分あり）

■ チケット料金 全席指定
一般：4,500 円
U24（24 歳以下）：2,250 円
豊島区民割引：4,000 円
障害者割引：3,500 円



撮影：橋蓮二



撮影：橋蓮二



主催公演 7

『奈々福の、惚れるひと。』

玉川奈々福が、日本の伝統話芸の分野の「惚れるひと」を紹介する人気シリーズ第三弾となる今回は、「正統派の雄」と称される落語家・五街道雲助と、講談界を牽引する実力派講談師・神田阿久鯉が出演。玉川奈々福は海外公演と一緒にこなしてきた曲師・沢村美舟の三味線で披露した。今回も「日本三大大衆話芸」と言われる落語と講談と浪曲の特色や違いを一度に楽しむことが出来、語り芸の豊かさを満喫できる絶好の機会となった。雲助の切れ良く味わいのある語り口と情景が目浮かぶ描写力、阿久鯉の鍛え上げられた声音の迫力、奈々福の表情豊かで覇気のある語り口を堪能できた。

出演

五街道雲助
神田阿久鯉
玉川奈々福
(曲師：沢村美舟)

スタッフ

照明：加藤秀俊（株式会社岡田舞台）
音響：井隼誠吾（株式会社岡田舞台）
舞台監督：岡田直哉（株式会社岡田舞台）
宣伝美術：菅原麻衣子（ycoment）
宣伝写真：橋蓮二
ヘアメイク：タカダヒカル



■ 公演 DATA

日程：2020年10月7日（水）
会場：あうるすぽっと
公演回数：2回（客席数143／回）
入場者数：204名
上演時間：約2時間（休憩なし）

■ チケット料金 全席指定

一般：4,000円
U24（24歳以下）：2,500円
障害者割引：3,000円

企画制作：あうるすぽっと
協力：Palabra株式会社
主催：公益財団法人としま未来文化財団（あうるすぽっと） 豊島区 東京芸術祭実行委員会
助成：令和2年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

主催公演 8

神田阿久鯉・神田伯山 連続読み
『天明白浪伝』 通し公演

天変地異が続き、政情不安に揺れた天明時代～大泥棒・神道徳次郎一派の物語。天明2年に始まった「天明の大飢饉」により、各地で治安が悪化するなど、世情は不安定だった天明年間（西暦1781～89年）を舞台に、様々な盗賊（＝白浪）のエピソードを描いた、大師匠の二代目山陽が得意にした白浪物『天明白浪伝』を上演。同時期の人気シリーズ『奈々福の、惚れるひと。』にて、希望のあうるすぽっと初登場となり、古典連続物を得意とする次代を担う講談師の神田阿久鯉と、2020年1月、神田松之丞として最後の連続読みをあうるすぽっとで披露し真打昇進と襲名を果たした神田伯山の注目の姉弟コンビが、3日間の連続読みにて口演。緊張感あふれる迫力の舞台は必聴の公演となった。

出演

神田阿久鯉
神田伯山

スタッフ

照明：加藤秀俊（株式会社岡田舞台）
音響：井隼誠吾（株式会社岡田舞台）
舞台監督：岡田直哉（株式会社岡田舞台）
宣伝美術：菅原麻衣子（ycoment）
宣伝写真：橋蓮二

■ 番組

初日
第一話「徳次郎の生い立ち」阿久鯉
第二話「稲葉小僧」伯山
第三話「金棒お鉄」伯山
第四話「むささびの三次」阿久鯉

中日
第五話「むささびの三次～召し捕り」伯山
第六話「悪鬼の萬造」阿久鯉
第七話「首無し事件」伯山

楽日
第八話「八百蔵吉五郎」阿久鯉
第九話「岐阜の間違い」伯山
第十話「大詰め勢揃い」阿久鯉
お楽しみ「一文化白波一鰯掛松」伯山



■ 公演 DATA

日程：2020年10月8日（木）～10日（土）
会場：あうるすぽっと
公演回数：3回（客席数143／回）
入場者数：386名
上演時間：約2時間30分（休憩あり）

■ チケット料金 全席指定（3日間通し券）

一般：10,500円
U24（24歳以下）：9,000円
障害者割引：9,000円

企画制作：あうるすぽっと 冬夏株式会社
協力：Palabra株式会社
主催：公益財団法人としま未来文化財団（あうるすぽっと） 豊島区 東京芸術祭実行委員会
助成：令和2年度文化庁国際文化芸術発信拠点形成事業



撮影：bozzo

主催公演 9

ロームシアター京都 レポートリー作品

木ノ下歌舞伎 『糸井版 摂州合邦辻』

せっしゅうがっぽうがつじ

ロームシアター京都が主体的に作品製作に取り組み、劇場のレポートリー演目としてプロデュースする「レポートリーの創造」シリーズから、2019年2月の上演時に絶賛された話題作をあうるすぽっとで再演。歌舞伎の現代化で注目される木ノ下歌舞伎と、唯一無二の楽曲と劇世界を放つ糸井幸之介がタッグを組み、運命に翻弄される2人の男女を軸に血族の悲劇として描かれてきた「摂州合邦辻」を再解釈。原典とされる能「弱法師」や説経節「しんとく丸」などの要素に改めて光を当て、音楽劇として示した。昨年、惜しくもこの世を去った舞台美術家・鳥次郎の最後の舞台美術も注目された。さらに多くの方々にご来場いただけるよう、聴覚障害者へ向け字幕タブレット、視覚障害者に向け音声ガイドを用意するなどアクセシビリティの充実にも力を入れた。

出演

内田慈
土屋神葉
谷山知宏
永島敬三
永井茉莉奈
飛田大輔
石田迪子
山森大輔
伊東沙保
西田夏奈子
武谷公雄

スタッフ

作：菅専助 若竹笛躬
監修・補綴・上演台本：木ノ下裕一
上演台本・演出・音楽：糸井幸之介（FUKAIPRODUCE 羽衣）
音楽監修：manzo
振付：北尾亘
舞台美術：鳥次郎 角浜有香
照明：吉本有輝子
音響：小早川保隆
衣裳：大野知英
ヘアメイク：須山智未
補綴助手：稲垣貴俊 山道弥栄
演出助手：岩澤哲野 山道弥栄
演出部：川村剛史（ロームシアター京都）
舞台監督：大鹿展明
制作：武田知也 宮崎麻子（ロームシアター京都） 本郷麻衣
宣伝美術：外山央
宣伝写真：井上嘉和
宣伝映像：桜木美幸
特設 WEB：増本泰斗



■公演 DATA

日程：2020年10月22日（木）～26日（月）
会場：あうるすぽっと
公演回数：6回（客席数143／回）
入場者数：822名
上演時間：約3時間（休憩あり）

■チケット料金 全席指定

一般：4,500円
U24（24歳以下）：2,250円
豊島区民割引：4,000円
障害者割引：3,500円

企画制作：ロームシアター京都 木ノ下歌舞伎 一般社団法人樹来舎
製作：ロームシアター京都
共同製作：穂の国とよはし芸術劇場 PLAT KAAT 神奈川芸術劇場
協力：特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク（TA-net） 一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構 Palabra 株式会社
主催：公益財団法人としま未来文化財団（あうるすぽっと） 豊島区 東京芸術祭実行委員会
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会



撮影：橋蓮二

主催公演 10

『柳家三三 三夜 三道楽×三席 江戸三昧』

人間国宝・柳家小三治の直弟子で、「若き古典落語の名手」と人気を博す柳家三三が登場。2006年の真打昇進時には「将来の落語界を背負って立つ逸材」と称され、数々の受賞歴がその実力を証明する期待の落語家。今回は「飲む・打つ・買うは江戸の粋」をテーマにした噺をそれぞれ一席ずつ、一夜で三席上演。三三の芸の魅力は、噺の世界に一気に引き込む切れ味のある語り口と心地よいリズム。多くの伝統話芸初心者を虜にし、また、落語通をうならせる、満足度の高い公演となった。

出演

柳家三三

スタッフ

照明：加藤秀俊（株式会社岡田舞台）
音響：井隼誠吾（株式会社岡田舞台）
舞台監督：岡田直哉（株式会社岡田舞台）
宣伝写真：橋蓮二
宣伝美術：GOAT

■演目

初日	一、ずっこけ 一、清水の小政
仲入	一、文違い
二日目	一、狸賽 一、明烏
仲入	一、試し酒
三日目	一、錦の袈裟 一、親子酒
仲入	一、猫定



■公演 DATA

日程：2020年10月28日（水）～30日（金）
会場：あうるすぽっと
公演回数：3回（客席数163／回）
入場者数：468名
上演時間：約2時間（休憩あり）

■チケット料金 全席指定

一般：3,500円
U24（24歳以下）：1,750円
障害者割引：3,000円

企画制作：あうるすぽっと
主催：公益財団法人としま未来文化財団（あうるすぽっと） 豊島区 東京芸術祭実行委員会
助成：令和2年度文化庁国際文化芸術発信拠点形成事業



主催公演 11

公益財団法人としま未来文化財団設立 35 周年記念事業
あうるすぽっと×コンドルズ

『にゅ～盆踊り NEO』としま文化の日

国際アート・カルチャー都市のシンボル「Hareza 池袋」の幕開けを記念するため、11月1日(日)を「としま文化の日」と制定し、記念の事業を行った。イベント企画として、ダンスカンパニーコンドルズによるパフォーマンスと、にゅ～盆踊り NEO の特設サイトから発信された新しい盆踊りを発表。前半のパフォーマンスではダイナミックなダンスと軽快なコントで客席を沸かせ、後半では豊島区内施設 32 箇所で開催した区民の皆さんが披露する盆踊り映像により、豊島区民の文化的活動への積極的な参加度の高さを映し出した。また、豊島区内 4 つの公園を中心に、にゅ～盆踊り NEO・フラッシュモブも実施された。

出演

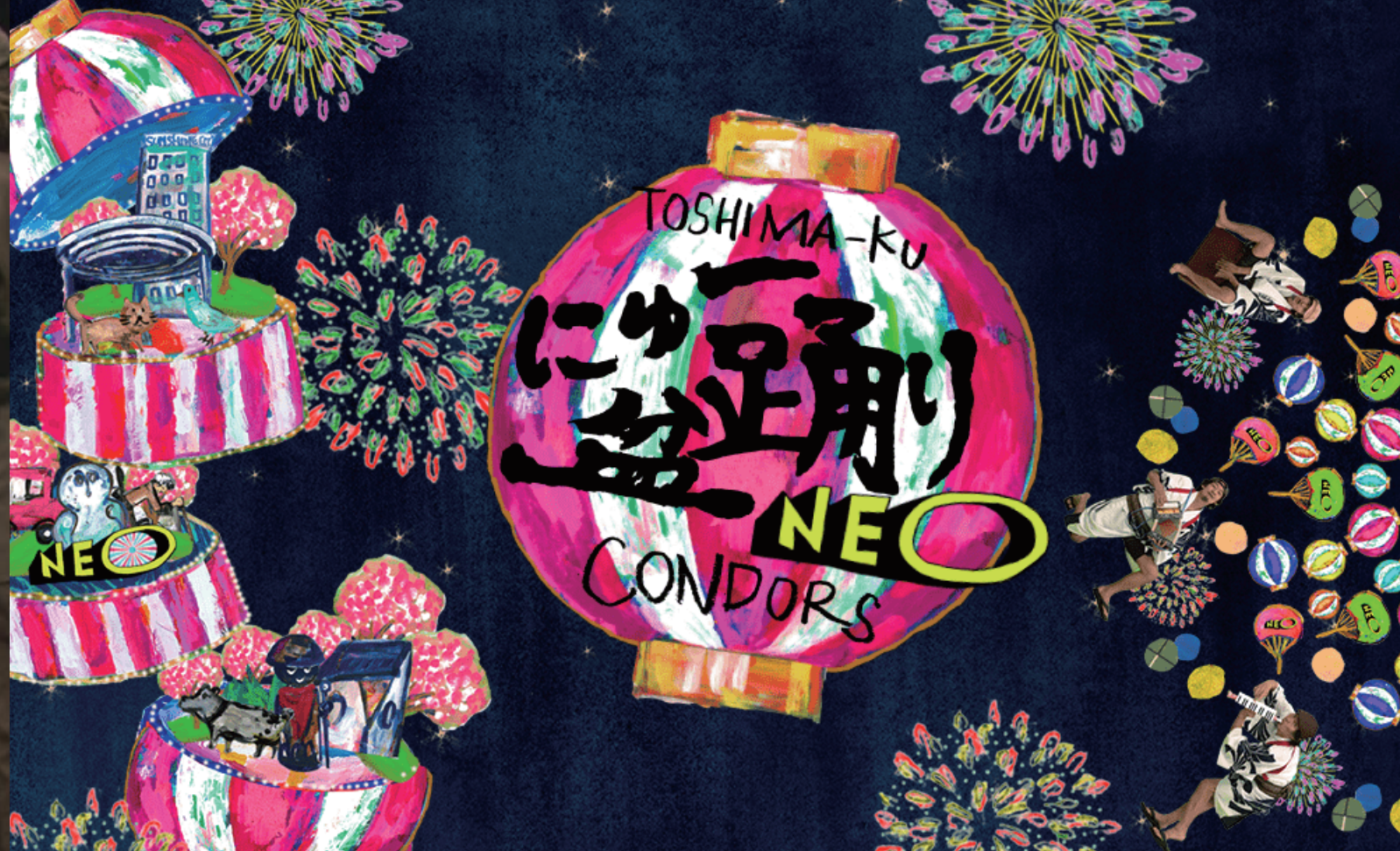
コンドルズ

石渕 聡	ジントク	トーク出演：森本千絵 (goen ^o)
オクダサトシ	スズキ拓朗	笠井信輔
勝山康晴	橋爪利博	司会：笠井信輔
香取直登	藤田善宏	にゅ～盆踊り NEO 出演：豊島区民
鎌倉道彦	安田有吾	
黒須育海	山本光二郎	
古賀 剛	近藤良平	

スタッフ

振付：近藤良平
照明：坂本明浩 (OneDrop)
音響：原嶋紘平 (SONIC WAVE)
舞台監督：筒井昭善
アートディレクター：森本千絵 (goen^o)
プロデューサー：根本晴美 (あうるすぽっと)
勝山康晴 (ロックスター)

フラッシュモブ出演：山口夏絵 (マグナム☆マダム)
岡本優 (タバサ)
安倍晴 (妖精大図鑑)
小林らら 森陽菜 (CHAiroidPLIN)
スズキ拓朗 香取直登 安田有吾 山本光二郎 黒須育海 (コンドルズ)



主催公演 12

公益財団法人としま未来文化財団設立 35 周年記念事業
あうるすぽっと×コンドルズ

『にゅ～盆踊り NEO』

特設 WEB サイト「にゅ～盆踊り NEO」を立ち上げた。実施できない『にゅ～盆踊り』を WEB 上で行おうという試みで、11 月から 2 月までは毎月、3 月から 7 月までは隔月で、近藤良平振付・作詞・作曲による新しい盆踊りの振付が発信される。どこでも、いつでも、誰とでも、自由に盆踊りを楽しむことが出来、踊っている様子を投稿してもらう事によって、離れていても心はひとつ、WEB 上で盆踊りの輪を広げることができるコンテンツ。2021 年 9 月に実施される予定の「にゅ～盆踊り」へとつなげ、盛り上げていく。

出演

近藤良平
コンドルズ
動画投稿者

スタッフ

構成・振付・演出：近藤良平 (コンドルズ主宰・振付家・ダンサー)
アートディレクター：森本千絵 (goen^o 主宰・アートディレクター)
Web サイト制作：矢野賢史 (EVOWORX 代表・プロデューサー)
プロデューサー：根本晴美 (あうるすぽっと) 勝山康晴 (ロックスター)



■ 公演 DATA

配信日程：2020 年 11 月 1 日 (日)～2021 年 9 月 20 日 (月・祝)
特設 WEB サイトアクセス数：5,483 回 (3 月 20 日現在)



撮影：石川純

主催公演 13

『その男、ピッグテイル』

今まで演劇に触れる機会のない方々にも気軽に劇場に足を運んでもらい、「観てみたら演劇って意外と面白い」と感じられる作品を目指した。演出は、劇団「tsumazuki no ishi」を主宰し劇団作品の演出・出演のみならず、映画監督や外部の演劇プロデュース公演でも演出家・役者として引っぱりだこの寺十吾。脚本は、演劇集団「西瓜糖」を2012年にたちあげ、骨太なストーリーテラーとして注目の劇作家・秋之桜子に新作を委嘱。江戸から明治へと新しい時代の大きな転換期、社会の価値観の急激な変化に戸惑いながらも明日へ向かう若者達の「生」を描き、変化と淘汰を余儀なくされている現代をも想起させた。時代劇から音楽劇まで幅広く活躍する若手役者と、脇を固めるキャリアのある実力派・個性派役者陣が、シンプルながらも巧みに空間や時空を表現する舞台上で化学反応を見せ、エネルギー溢れる力強い作品となった。

出演

宮崎秋人 大数丘 一色洋平 前島亜美
町田マリー 加山徹 高山春夫
吉村公佑 今井勝法 中山朋文 碓井将仁
池田怜央 津田修平 川崎脩誠 山中博志 滝口巧
鈴木みや 安達千里 檀山友弥 水落斉平 舟山利也
日辻義昭 熊谷夏希 千村一真 清水凱 小野峻佑
福岡浩康 梅木懐 井料明里 北野更 相今くる

スタッフ

作：秋之桜子 殺陣：六本木康弘
演出：寺十吾 振付：ズズキ拓朗
美術：池田ともゆき 演出助手：和田沙緒理
照明：中川隆一 舞台監督：幸光順平 鈴木拓
音楽：坂本弘道 制作協力：Nana Produce
音響：岩野直人 中山朋文 (theater 045 syndicate)
映像：浜嶋将裕 宣伝美術・イラストレーション：小見大輔
衣裳：半田悦子 制作：馬場順子 (石井光三オフィス)
ヘアメイク：吉田みわ



■公演 DATA

日程：2020年11月22日（日）～29日（日）
会場：あうるすぽっと
公演回数：8回（客席数165／回）
入場者数：1,143名
上演時間：約2時間10分（休憩なし）

■チケット料金 全席指定

一般：5,000円
U24（24歳以下）：2,500円
豊島区民割引：4,500円
障害者割引：3,500円

企画制作：あうるすぽっと
主催：公益財団法人としま未来文化財団（あうるすぽっと） 豊島区 東京芸術祭実行委員会
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

ワークショップ・レクチャー

ワークショップ・レクチャー 1

としまおやこ小学校

美術家 YORIKO が2019年に東アジア文化都市2019豊島・舞台芸術部門／アトカル・マジカル学園事業として実施し、好評を得た企画をあうるすぽっとで実施。会議室を教室に変身させ、親子が同級生となって学んで遊ぶ期間限定の「小学校」。教壇に立つのは様々な仕事人や地域のスペシャリスト。普段の学校とはちょっと違う、親子で熱中できるユニークな授業を展開した。



日程：2020年11月7日（土）～11月29日（日）のうち、毎週土・日開校

会場：あうるすぽっと会議室、他 池袋周辺エリア

回数：16回

参加者数：延べ231名

参加費：500円

講師：YORIKO（おやこ小学校担任・にぎわい空間作家）、他

主催：公益財団法人としま未来文化財団（あうるすぽっと） 豊島区 東京芸術祭実行委員会
協力：大正大学 和田直也（合同会社ノマ） 東日本旅客鉄道株式会社 及川賢一（NPO法人AKITEN）
制作協力：一般社団法人あひるタイガ社
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

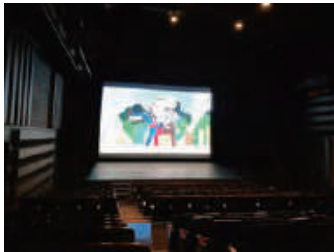
ワークショップ・レクチャー 2

地域のサンプロジェクト「おうちで見よう！あうるすぽっと2020夏 上映会」

特定非営利活動法人「豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク」の無料学習支援会・子ども食堂に通う親子を対象にしたクリスマス会を実施。2020年8月にYouTubeで無料配信した「おうちで見よう！あうるすぽっと2020夏」を劇場で上映した。劇場での鑑賞に加え、子どもたちへのクリスマスプレゼントとして地域の企業から協賛品を提供いただき配布を行った。

日程：2020年12月22日（火）
会場：あうるすぽっと
回数：1回
協賛品提供数：150個

協力：NPO法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク
協賛：一般社団法人あひるタイガ社 株式会社 池袋ショッピングパーク 株式会社 そごう・西武 西武池袋本店 豊島ケーブルネットワーク株式会社
主催：公益財団法人としま未来文化財団（あうるすぽっと） 豊島区
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業） | 独立行政法人日本芸術文化振興会



展 示

図書館関連事業『豊島区立中央図書館 特別展示』

あうるすぽっとは、豊島区立中央図書館と連携し、「文化の交流拠点」として地域の活性化を目的とした活動を行っている。毎月、劇場の公演やワークショップなどにあわせてテーマを決め、図書館内の特設スペースで関連図書を展示。図書を通してあうるすぽっとの活動を紹介することで、新たな角度から事業への理解を深める機会を設けることができた。

実施回数：8回（4～7月期中止）

日 程：2020年7月24日（金・祝）～8月27日（木）

タイトル：おうちで見よう！あうるすぽっと 2020 夏

関連事業：おうちで見よう あうるすぽっと 2020 夏

日 程：2020年8月28日（金）～9月24日（木）

タイトル：『日の名残り』～カズオ・イシグロと越境する文学

関連事業：朗読劇『日の名残り』

日 程：2020年9月25日（金）～10月22日（木）

タイトル：「糸井版 摂州合邦辻」～歌舞伎・古典芸能・演劇を楽しむ～

関連事業：木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』

日 程：2020年10月23日（金）～11月26日（木）

タイトル：変わるもの、守るもの～時代の変化と生きる『その男、ビッグテイル』

関連事業：『その男、ビッグテイル』

日 程：2020年11月27日（金）～12月24日（木）

タイトル：ふしぎがいっぱい、魔法の舞台へようこそ！

関連事業：STORY MAGIC LIVE『魔法使いの頭の中～願いの叶う季節～』＜開催中止＞

日 程：2020年12月25日（金）～2021年1月21日（木）

タイトル：講談師 神田伯山 新春連続読み『寛永宮本武蔵伝』完全通し公演 令和三年 伝統話芸を知ろう

関連事業：講談師 神田伯山 新春連続読み『寛永宮本武蔵伝』完全通し公演 令和三年 ＜開催延期＞

日 程：2021年1月22日（金）～2月25日（木）

タイトル：演劇を観よう！劇場へいこう！

関連事業：なし

日 程：2021年2月26日（金）～3月25日（木）

タイトル：みんなでDANCE！

関連事業：CHAiroid PLIN おどる小説『桜の森の満開の下』



協力：有限会社ヒゲプロ

開催延期

インクルーシブ・シアタークリエーション・プロジェクト

日・英・バングラデシュ 3 か国共同事業『テンペスト～はじめて海を泳ぐには～』

日程：2020年5月12日（火）～17日（日）

開催中止

第 31 回池袋演劇祭大賞受賞団体 電動夏子安置システム

『ベンジャミンの教室』

日程：2020年8月27日（木）～30日（日）

開催中止

『第 32 回池袋演劇祭』

日程：2020年9月1日（火）～30日（水）

開催中止

シアターサーカスカンパニー「Flip Fabrique- フィリップ・ファブリック」

『TRANSIT- トランジット -』

日程：2020年11月22日（日）・23日（月・祝）

開催中止

STORY MAGIC LIVE『魔法使いの頭の中～願いの叶う季節～』

日程：2020年12月18日（金）～21日（月）

開催延期

講談師 神田伯山 新春連続読み『寛永宮本武蔵伝』完全通し公演 令和三年

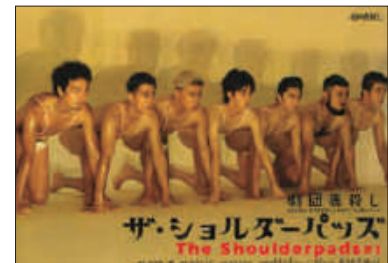
日程：2021年1月6日（水）～16日（土）

タイアップシリーズ

タイアップ 1

劇団鹿殺し 『ザ・ショルダーパッズ』

主催：株式会社オフィス鹿
日程：2020年11月7日（土）～15日（日）
公演回数：14回
入場者数：1,678名 配信：676名
チケット料金：全席指定
パンフ付き前売券 6,300円 一般前売・当日 4,900円 ヤング券（U-22） 3,500円
配信公演前売り・当日 2,500円
豊島区民割引 4,500円



【上演作品】
「銀河鉄道の夜」 原作：宮沢賢治 脚本：丸尾丸一郎 演出：菜月チョビ 音楽：タテタカコ
「少年探偵団」 原作：江戸川乱歩 脚本：丸尾丸一郎 演出：菜月チョビ 音楽：タテタカコ
出演：丸尾丸一郎 菜月チョビ
鷺沼恵美子 有田あん メガマスミ 長瀬絹也 内藤ふり 藤綾近 前川ゆう
君沢ユウキ 伊藤今人（梅棒 / ゲキバカ） 松浦司 伊藤教人 五十嵐結也 勝又啓太
※メガマスミは「少年探偵団」に、伊藤今人は「銀河鉄道の夜」に出演。他キャストは両作品に出演。

タイアップ 2

Baobab PRESENTS 『DANCE×Scrum!!! 2020』

主催：Baobab ゴーチ・ブラザーズ
日程：2020年12月4日（金）～6日（日）
公演回数：4回
入場者数：364名 ホワイエ：263名 配信：70名
チケット料金：全席自由（整理番号付）
開幕祭 一般 2,500円 学生以下 2,000円
ステージ+ホワイエ鑑賞券 一般 4,000円 学生以下 3,500円
ステージ鑑賞券 一般 3,500円 学生以下 3,000円
豊島区民割引 各券種 300円引き
ディレクター：北尾亘（Baobab）
出演：五十嵐結也 岡本優（TABATHA） 北尾亘（Baobab） 熊谷拓明
田村興一郎 中村蓉 中屋敷南 和太鼓+ダンスユニット（まだこばやし） ほか



タイアップ 3

チェルフィッチュ × 金氏徹平 『消しゴム山』 東京公演

主催：一般社団法人チェルフィッチュ 株式会社プリコグ
日程：2021年2月11日（木・祝）～14日（日）
公演回数：6回
入場者数：653名 配信：221名
チケット料金：全席指定
一般 4,500円（当日 4,800円）
U29（29歳以下対象） 3,500円（当日 3,800円）
豊島区民割引 4,000円 障害者割引 3,000円
ライブ配信 1,800円（全公演・全券種同一）
脚本・演出：岡田利規 セノグラフィー：金氏徹平
出演：青柳いづみ 安藤真理 板橋優里 原田拓哉 矢澤誠 米川幸リオン



タイアップシリーズ

関連事業

貸館公演

その他

タイアップ 4

MONO 第 48 回公演
『アユタヤ』

主催：キューカンパー
日程：2021 年 3 月 2 日（火）～ 7 日（日）
公演回数：8 回
入場者数：826 名 配信：256 名
チケット料金：全席指定
一般 4,200 円 ペアチケット 7,600 円
U-25（25 歳以下対象）2,000 円
豊島区民割引 3,800 円
ライブ配信 2,200 円
作・演出：土田英生
出演：水沼健 奥村泰彦 尾方宣久 金替康博 土田英生
石丸奈菜美 高橋明日香 立川茜 渡辺啓太



タイアップ 5

CHAiroidPLIN おどる小説
『桜の森の満開の下』

主催・制作：合同会社モダンタイムス
日程：2021 年 3 月 18 日（木）～ 20 日（土・祝）
公演回数：5 回
入場者数：516 名
チケット料金：全席指定
一般 4,000 円 大学生 2,500 円 高校生以下 1,500 円 4 歳～小学生 500 円
豊島区民割引 3,800 円
原作：坂口安吾
振付・構成・演出：スズキ拓朗
出演：エリザベス・マリー 小林らら 清水ゆり ジョディ ジントク 岡村樹 小笠原美優 美守桃
二ノ戸新太 柏木俊彦 埜本幸良 橋爪利博 スズキ拓朗



あうるすぽっと区民シリーズ

豊島区を拠点に様々な文化活動を展開する区民及び区内文化団体の皆様に、優先的に劇場を利用していただく期間を設け、「あうるすぽっと区民シリーズ」として開催。あうるすぽっとで公演や展示を行い、多くの方々に鑑賞していただくことで地域の集いの場になることを目指している。

『サマーバレエコンサート 2020』

日程：2020 年 8 月 3 日（月）
公演回数：1 回
入場者数：63 名
主催：タツミバレエスタジオ

小林紀子バレエアカデミー
『第 19 回ジュニアバレエコンサート』

日程：2021 年 1 月 19 日（火）
公演回数：1 回
入場者数：60 名
主催：小林紀子バレエアカデミー

貸館公演

『バトリズムステージ VOID』

企画・製作：オッドエンタテインメント
日程：2020 年 8 月 12 日（水）～ 16 日（日）
公演回数：9 回

ミュージカル・ギルド q. 第 17 回公演
『The Heartbreak Hotel！
～ありふれた恋のカタチ～』

主催：ミュージカル・ギルド q.
日程：2020 年 8 月 19 日（水）～ 23 日（日）
公演回数：8 回

ブルーシャトルプロデュース
日本史 ROCKSHOW Vol.1
『承久の乱』

主催：劇団ひまわり
日程：2020 年 9 月 3 日（木）～ 6 日（日）
公演回数：8 回

舞台「文豪ストレイドッグス 序」
『探偵社設立秘話・太宰治の入社試験』

主催：舞台「文豪ストレイドッグス 序」製作委員会
日程：2020 年 9 月 11 日（金）～ 27 日（日）
公演回数：24 回

国立オペラ・カンパニー青いサカナ団
第 37 回公演／オリジナル第 20 作目記念作品
歌劇『仔羊は湖（うみ）の底で眠る』

主催：NPO 法人 国立オペラ・カンパニー青いサカナ団
日程：2020 年 11 月 3 日（火・祝）
公演回数：2 回

踊る「熊谷拓明」カンパニー
ダンス劇『舐める、床。』

企画制作・主催：踊る「熊谷拓明」カンパニー
日程：2020 年 12 月 10 日（木）～ 13 日（日）
公演回数：7 回

ナイスコンプレックス N 31
『キスより素敵な手を繋ごう』

主催・企画制作：ナイスコンプレックス
日程：2021 年 2 月 20 日（土）～ 28 日（日）
公演回数：12 回

その他 1

第 13 回 小田島雄志・翻訳戯曲賞

「小田島雄志・翻訳戯曲賞」は、日本における翻訳劇の振興を目的として、翻訳家・英文学者の小田島雄志が設立。第 1 回～第 10 回までは、その年に上演された翻訳劇の中から特に優れた翻訳者を、英語から 1 名、それ以外の言語から 1 名の計 2 名を小田島雄志個人が選出し、表彰してきた。第 11 回以降は、翻訳者に加えて上演成果も対象にし、その年に上演された特に優れた翻訳劇の戯曲翻訳者・上演団体 1 ～ 2 件を「小田島雄志・翻訳戯曲賞」実行委員会にて選出。実行委員会事務局は、あうるすぽっと内。

受 賞 者：	シム・ヂヨン 沈池娟
受賞対象作品：	『少年 B が住む家』の翻訳に対して
作：	李ボラム
演 出：	眞鍋卓嗣
翻 訳：	シム・ヂヨン 沈池娟
主 催：	名取事務所
上演期間：	2020 年 10 月 23 日（金）～ 11 月 2 日（月）
会 場：	下北沢 小劇場 B1

受賞団体：	世田谷パブリックシアター
受賞対象作品：	『メアリ・スチュアート』の上演に対して
作：	フリードリヒ・シラー
上演台本：	スティーブン・スペンダー
翻 訳：	安西徹雄
演 出：	森新太郎
上演期間：	2020 年 1 月 27 日（月）～ 2 月 16 日（日）
会 場：	世田谷パブリックシアター

特別賞	
受賞作：	新国立劇場シェイクスピア歴史劇シリーズ
受賞対象作品：	2009 年 10 月『ヘンリー六世・三部作』から 2020 年 10 月『リチャード二世』に到る シェイクスピア歴史劇シリーズの上演に対して
受賞対象作品：	2009 年『ヘンリー六世・三部作』 2012 年『リチャード三世』 2016 年『ヘンリー四世・二部作』 2018 年『ヘンリー五世』 2020 年『リチャード二世』
会 場：	新国立劇場中劇場

その他 2 豊島区／としま未来文化財団 地域関連事業

豊島区国際アート・カルチャー特命大使自主企画事業
高汐巴芸歴 50 周年・三木章雄豊島区国際アート・カルチャー特命大使特別顧問就任記念
『Dream Weaver』
江戸川乱歩「黒蜥蜴」より ～闇物語～

主催：Dream Weaver「黒蜥蜴」制作委員会 高汐巴事務所
日程：2020 年 12 月 25 日（金）～ 27 日（日）
公演回数：4 回
入場者数：768 名

『地域猫住み良い町のバロメーター ～飼い主のいない猫について考えてみよう～』

主催：豊島区池袋保健所 生活衛生課
日程：2021 年 1 月 17 日（日）
公演回数：1 回
入場者数：40 名

豊島区立千登世橋中学校吹奏楽部 スプリングコンサート

主催：豊島区立千登世橋中学校 共催：豊島区教育委員会
日程：2021 年 3 月 21 日（日）
公演回数：1 回
入場者数：93 名



教育普及活動事業レポート

アクセシビリティ・観劇サポート

施設概要

事業内容

施設利用状況

としまおやこ小学校

■ としまおやこ小学校とは

親子2人1組で参加してもらう1ヶ月限定のアートプロジェクト。あうるすぽっとなどで毎週末様々な専門家の方に講師となってもらい、考えたり話し合ったり、社会科見学などの体験型授業を行った。テーマは「親子協働」。親と子が「同級生」として同じ目線になって取り組み、一緒に学んで互いに発見することを目的として実施した。

■ 授業内容

時 間 割	日 付	教 科	内 容（レクチャー、ワークショップ、発表があります）
1 時間目 (1回目)	11/7 (土) か 8 (日)	さんすう 算 数	● 駄菓子屋さんをつくろう！ 親子で駄菓子屋さんを運営するとしたら？協力し合って実際にやってみよう！
2 時間目 (2回目)	11/14 (土) か 15 (日)	しゃかい 社 会	● 社会科見学！電車のヒミツとお仕事体験 電車好きな子必見！車掌さんに、電車の安全を守るお仕事を教えてください。
3 時間目 (3回目)	11/21 (土) か 22 (日)	こくご 国 語	● 大人vs子ども！親子会議 ご家庭の新ルールを親が提案し、子と討論を繰り広げる爆笑白熱バトル。
4 時間目 (4回目)	11/28 (土) か 29 (日)	ずこう 図 工	● 親子でプレゼントを贈りあおう 親子でお互いへの贈り物を作って交換しよう！卒業式も行います。



撮影：鈴木電馬

YORIKO

(おやこ小学校担任・にぎわい空間作家)

プロフィール

1987年埼玉県生まれ、株式会社ニューモア代表。様々な地域で「多世代・多業種の協働」をテーマに住民参加型のデザイン・アートプロジェクトに取り組む。「高松市 AIR2016」「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2018」などに参加。

おやこ小学校を通して、自分の中で確信になったことが2つあります。

ひとつは「ふつうの家庭」はどこにも無い、でも各家庭に「うちのふつう」があって、親子とはこういうものだとい概にマニュアル化は決して出来ないということ。

あともうひとつは、お子さんが楽しそうだと親御さんが嬉しいのはもちろんですが、親御さんが楽しそうだと、お子さんも心底嬉しいんだなということです。

緊張感絶えないご時世ですが、広い会場で感染対策万全に、そして参加者・関係者みなさんの協力あって無事に終えることができました。マスク越しで表情が見えないことを懸念していましたが、仕上がった写真を見たらそんな事気にならないくらいみんなが楽しそうでした。

授業をサポートしてくれた大学生さんたちの存在も大きく、子どもと大人とその間と、多世代協働で作り上げる企画を実施できて幸せです。

おやこ小学校に関わってくださったみなさま、本当に、ありがとうございました。

親子の間に発見したこと

(感想より抜粋)



- ・知らんまに成長してるのに感動しました。だんだんと自分の世界がひろがってるようで何よりです。
- ・親子会議等、大人が思っている以上に子供も考えているんだなあ。分かってきているんだなあと思いました。
- ・帰宅する途中から、次のおやこ小はいつ？行きたい行きたいと大騒ぎ！
- ・いつも兄妹で行動しているので、今回単独で参加してみたことで、娘の積極性を見ることができました。
- ・まだまだ恥ずかしがりですが、ずいぶん成長したことを実感できました。
- ・いつもいつも楽しいのでこんな理想の学校を作ったのはだれですかと聞きたいです。
- ・パパがぼくのことをそんなに知ってた。
- ・おやがえがこんなにうまいとおもわなかった。
- ・きずなが深くなった！！



撮影：山本陸

観劇サポート（アクセシビリティ）への取り組み

あうるすぽっとでは、「みんなの劇場」を劇場のミッションに、誰もが舞台芸術に触れることができるよう、それぞれの目線に立った様々な配慮と工夫を続けてきた。

2013 年から観劇サポートの講座を開始し、主催公演を中心に、舞台音声を磁気ループ・骨伝導ヘッドフォンへ伝える携帯型赤外線受信機の貸し出し、受付手話通訳、舞台手話通訳、字幕投影、ポータブル型字幕、音声ガイド、貸出台本、駅からの送迎など、事業内容によって柔軟に選択し実施している。また障害がある実演家との創作を重ねてきた経験を生かし、2017 年より観劇サポートを付けた公演事業「みんなのシリーズ」を開催している。

公演事業では字幕を劇場オリジナルで制作するなど、観劇サポートもクリエイションの時代に突入し、継続実施した成果として、取り組みも広がりつつあり、社会の理解や必要性の認識も醸成されてきている。

障害者差別解消法の施行、「SDGs」の実現を機会に、公共施設職員のスキルとして「観劇サポート」の知識が必須になったといえ、公演事業で取り入れてきた「視覚障害者のための音声ガイド」を施設職員で行うことで観劇サポートが持続可能なものにする 것을 目的とし「できることからはじめよう」をキーワードに演芸の音声ガイドを職員で運営することを目標にし、職員研修を行った。

レポート 1

■ 木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』の観劇サポートの実施

これまでに、日本舞踊、演芸、ダンス公演に観劇サポートを実施してきた。木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』が演劇作品への本格的な観劇サポートの初の取り組みとなり、これまで培ってきたノウハウを生かし、より充実した内容に、また、より作品の醍醐味を感じていただけるサポートを目指した。

音声ガイドでは、ただ視覚情報の描写を説明するのではなく作品とともに歩むことを意識し、字幕を作成する際には、キャストの写真を入れ話者がわかるように、セリフの強弱を文字の大きさに表現、歌唱時には歌詞の色を変え抑揚の表現を行った。

本公演では観劇サポート日以外でも、歌詞の字幕が舞台上にあり、きこえる・きこえないに関わらず楽しめる工夫がなされていた。また、振付には手話が取り入れられており、観劇サポート日には聴覚障害者の方が一緒に手話で踊るという光景も見られた。クリエイション側にも観劇サポートが無理なく浸透してきていることを実感した。

観劇サポート内容

木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』 10 月 25 日（日）12:00 開演の公演で実施

みえない・みえづらい お客様へ

- (1) 鑑賞を補助する音声ガイドを実施
- (2) ご希望の方には東京メトロ有楽町線「東池袋駅」からの送迎
- (3) 「触れる客席図」をご用意

きこえない・きこえづらい お客様へ

- (1) 鑑賞を補助する字幕タブレットの貸し出し
＊台詞にあわせて、感情や声の大きさを表した字幕を作成。
文字に動きや表情をもたせることで音のイメージが伝わりやすくなることを目指した。
- (2) 携帯型赤外線受信機の貸し出し
- (3) 当日受付で手話通訳者が案内

意見交換会より参加者のコメント

（一部抜粋・構成）

タブレット字幕に関して

木ノ下歌舞伎は、大ファンでこれを観るのは 3 回目、内容は前もって十分わかっていった状態で観ているんですけども、例えば、バイオリンが義太夫風であるとか、いつ誰が何と言っているのかというのを今日とてもすごくよくわかって、感動がすごすぎて、やっぱりわかった上で泣いているのと、字幕で内容がわかるのが嬉しいということで、感動しました。去年までは前もって台本を借りて全て覚えてからみるという感じだったので、ここは何と言ったのかわっているのは後でまた確認するという作業があったのでその場で感動するというのはなかったんですが、その場で感動が伝わってくるということが今回はすごくて、とても幸せな 3 時間でした。

音声ガイドに関して

音声ガイドは少ないほうがいい派。はじめの方は多めかな？と思って聞いていたけど、必要な情報ばかりだった。こういう切り口もあるんだな、と初めての経験。
ロビーのカフェがないことをアナウンスで言っていたけど、できれば事前に、ロビーでの飲食は可能とか、お昼の調整をするのに助けになる情報がほしかった。

アーティストから見た観劇サポート



撮影：bozzo

木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』振付 北尾 亘（ダンスカンパニー Baobab 主宰）

振付に手話を用いたのは、中心人物である俊徳丸が癩病に侵されるという物語から着想を得たものでした。観劇サポートで鑑賞された方々が振付に反応されている姿を目の当たりにした際に、「作品を彩る演出の一部」という枠を越えダンスを通してお客様と強く繋がることが出来た感覚でとても感動しました。舞台芸術はどんな方ともその時間と空間を共有する可能性を持っていると改めて痛感しました。その為にも「様々な趣向を凝らし多くの方に開かれた表現を模索していくこと」が、重要であると気付かされるキッカケとなりました。



木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』監修・補綴・上演台本 木ノ下 裕一（木ノ下歌舞伎 主宰）

以前から、障害がある方にかに演劇を楽しんでいただけるかということについては関心があった。けれど、それらを劇団独自で（しかも、恐ろしくエネルギーのかかる創作と平行して）行うには、体力的にも予算的にも限界がある。第一、そのためのノウハウが圧倒的に不足していて、何から手をつけていいのすらわからなかった。だから、気持ちだけはあるものの、これまで、ご要望があった方に限り台本貸出を行うくらいを試みにとどまっていた。

本来、劇場はすべての人に向けて開かれているべき場所であるはずなのに、そのための努力ができていない……そんな後ろめたさがあった。

それに加えて、コロナ禍。公演中止が相次ぎ、劇場に足を運ぶことすらままならない中、はたと気がついたのは、「コロナ禍がはじまるずっと前から、こんな気持ちでいた方がたくさんいらったのだ」ということだ。

障害があったり、心身の疾患であったり、地理的条件であったり、家庭の事情であったり、理由は人それぞれだろうけど、以前から、「劇場文化を楽しみたい」と熱望しつつも叶わない人が多くいたという現実が、身に染みて感じられたのだった。

だから、あうるすぽっとさんから、自劇団の『糸井版 摂州合邦辻』（演出・糸井幸之介）でぜひ観劇サポートを！というお声がけをいただいた時はとても嬉しかった。

視覚障害へのサポート（音声ガイド）と聴覚障害へのサポート（字幕タブレット）の二つにチャレンジしたわけだが、どちらのチームも素晴らしい心意気と技術をお待ちで、その制作過程を垣間見ているだけでも、刺激的だったし、そして学びも多かった。

音声ガイドは、担当してくださった方が何度も稽古場に足を運んでくださり、作品の核を掴もうとしてくださった。時に、隙間を見つけては私や演出の糸井さんに質問してくださる。その質問の数々は、どれも作品の根幹に関わる、まさに肝の部分ばかりで、私たちはその都度、改めて自作について言語化する必要に迫られた。作り手である私たちが感覚的にぼんやりとした演出、自明だと疑わずにいた解釈、“わかったつもり”になっていることなどを突いてくださる。結果、感覚的に作っていた部分に根拠が生まれる。創作の過程であまいにしていた、いわば思考の穴のようなものが埋められていく。言語化していくたびに、作品の強度が増すような気がした。お陰で風通しのいい創作現場になった。いつしか、音声ガイドチームと、一緒にひとつの作品を作っているような感覚にも陥った。それはとても嬉しいことだった。

音声ガイドを作るというお仕事は“翻訳”に似ている。聴覚情報のみで作品をより正確に伝えるためには、ぴったりにくる言葉選びが必要不可欠。たとえば、今回の場合、主人公の出自や身分を「武士」と表現するのか「大名」とするのか「領主の息子」とするか、または別な言葉がいいのか……たった一語のために、ずいぶん頭を悩ませておられたが、たしかに、それぞれニュアンスやイメージが異なる。もっと作品に合う単語がないか、もっとストレートに伝わるフレーズがあるはず……と常に言葉を探し続ける姿勢には、思わず頭が下がったし、それらの努力に応え得る作品にしなければと座組全体の士気も上がったように思う。

いい翻訳が、原文の旨味を引き出すように、現に健常者のお客さまから「二度目は音声ガイドありで観ましたが、一度目とは作品の見え方が違いました。どこに注目して観ればいいのかクリアになったような」という声をいただいたことも忘れ難い。

字幕タブレットには、おぼろげに想像していた無味乾燥なものではなく、表示の仕方に独自の工夫があり大いに驚いた。たとえば、台詞は俳優の顔写真とともに LINE のやりとりのように表示される。誰がどのタイミングで発した台詞かが一目瞭然。作品のキーとなる台詞は太字になったりフォントが変化したり、大声や叫び声は文字サイズが大きくなったり、小道具のイラストが入ったりとアニメーションの要素あり、目にも楽しい。私たちの芝居は、歌舞伎や浄瑠璃など日本の古典を扱っているので、古語を使うことも多い。耳で聴いているだけではなかなか難しい古語も、目で見ると漢字の意味からニュアンスを推測することができる。

また、たとえば「杭を打ち込むような音」とか「鈴の音」など、劇中に聴こえる効果音までも視覚化される。それらは、目立ちはしないけれど、作品にとって重要な要素、演出家が仕込んだ大切なシグナルだったりもするので、改めて視覚化されると、作品を見る眼も深まるような気がした。

つまり、音声ガイドにしても、字幕タブレットとしても、障害者へのサポートという枠を超えて、健常者の鑑賞もサポートしうる強度を備えているのだ。ここが大切なのだという気がしてならない。“みんなで楽しむ、ということ”は、健常者が障害者に歩み寄ることで、健常者が障害者を引き上げることでもない。健常者と障害者が互いに“補い合い、ながら両者が新しい感覚（鑑賞法）を獲得していくことなのだ。それは、〈健常者 / 障害者〉という一般に考えられている安易な線引き自体を疑うことでもあるのかもしれない。

実現するのは、とても難しいことだ。難しいことだけど、社会にとって絶対に必要なことだと思う。

その難しさゆえに、当然、課題も残った。たとえば、音声ガイドを使用された視覚障害のあるお客さまから、作中に登場する「めくら」という言葉に引っかかりを覚えたという意見が寄せられた。該当箇所は原作の古語台詞をそのまま使用したシーンで、盲目となった主人公が差別的な扱いを受けるくだりだった。当時の時代背景や価値観に基づいて書かれた戯曲でもあるし、物語の上でも“差別 / 非差別、の社会的構造を描く必要があると判断し、あえて使用したのだが、今となっては差別語のひとつである旧時代の視覚障害者を指す言葉をあえて改竄せずに使用する理由など、こちらの考えや、戯曲成立時の時代背景など、それら前提をもっと丁寧にお客さんと共有する必要があったのかもしれないと反省している。

字幕タブレットに関しては、芝居は日々生物であるから、どうしても表示の速度に微妙なタイムラグが生じてしまう。

また、今回は、台詞に加えて歌詞、それに場面説明など、いくつもの種類の異なる言葉が同時に表示されていたが、時に表示時間に対して読みきれない分量の文字が画面上に溢れることもあった。実際の舞台を見ながら字幕も追える、そんな適切な情報量にするにはどうすればいいのか……この点においてはもっと探る必要があったのかもしれない。時には思い切って情報を削ぎ落として、シンプルな字幕で見せるシーンがあってもいいだろうし。しかし、作品性を損なうことなくそれを行うためには作り手側である私たちがもっと積極的に字幕制作に関わらないといけないだろう。

感心したのは、あうるすぽっとさんの弛まぬ努力。観劇サポート実施後の劇場ロビーで、実際にサポートを利用した方から丁寧に感想を伺い、反省点や改善点を洗い出しておられた。こうした地道な試行錯誤があって、あうるすぽっと独自の観劇サポートは進化を遂げてきたし、そしてこれからも進化し続けるのだということに胸打たれた。それは、とてもとても大きな希望のように感じられた。

“みんなで楽しむことができる観劇環境、は一朝一夕にできるものではない。あうるすぽっとでは、今回のような観劇サポート以外にも、演者が手話つきで上演する作品や、赤ちゃんから観劇できる子供たちのため演劇など、画期的な企画を継続的に行ってこられた。並々ならない使命感と、劇場文化は万人に開かれるべきという信念がそれを可能にしてきたのかもしれない。

その灯は絶対に消してはならないと思う。その灯は、もっと沢山の劇場でもとされるべきものだし、私たち演劇人も率先して活動の一端を担っていかないといけないだろう。

これからも、末永く、あうるすぽっとが“良心の劇場、として光輝き続けますように。

レポート 2

■ 職員研修「視覚障害者のための音声ガイド運用から劇場にお迎えするサポートを実践的に学ぶ～」

音声ガイド作成のポイントを学び、実際の舞台の様子を伝えるガイドから必要なアナウンス事項までの検証を行った。また、簡単な発声練習を行い、実際に音声ガイドに挑戦しながら、専門家にアドバイスを受けた。「音声ガイド」が必要な方への宣伝方法、WEB サイトの見直し、アクセシビリティ度チェックを行い、実際に視覚障害の方がご来場される際の注意事項（駅から誘導、トイレのご案内、補助犬への気遣い）などを実践的に学んだ。受講した職員は公演事業の音声ガイド・駅からの送迎などの実習を行った。

実施日・場所

日時：9月23日（水）13：30～16：30
場所：あうるすぽっとサポーター室
参加者：としま未来文化財団職員
協力：Palabra 株式会社

以下の公演に音声ガイド実習を実施

『奈々福の、惚れるひと。』
2020年10月7日（水）14：00／19：00
出演：五街道雲助 神田阿久鯉 玉川奈々福（曲師：沢村美舟）

神田阿久鯉・神田伯山 連続読み
『天明白浪伝』通し公演
2020年10月8日（木）～10日（土）19：00
出演：神田阿久鯉 神田伯山

『柳家三三 三夜 三道楽 × 三席 江戸三味』
2020年10月28日（水）～30日（金）19：00
出演：柳家三三



参加職員のコメント

“劇場職員に限らず、手助けをしたくてもどのように声をかけてよいかわからないという人へ第一歩の踏み出し方を教えてくれる、非常に有意義な講座だった。今後の事業はもちろん、街中での手助けにも有用と感じた。障害当事者の方の中でも、外出に慣れている方は駅からの劇場職員による案内などサービスをうまく使って遠方からでも一人で足を運んでいる。サービスの拡充とともに、広く情報を伝搬することも課題だと思った。

“座学では、音声で得た情報を絵にする実習やアイマスクを装着しての誘導実習を通じ、普段いかに視覚情報に頼って生活しているかを実感した。この状況がない視覚障害の方々に劇場へ足を運び観劇していただく貴重な機会をより手厚くサポートできるよう、受け入れ側も知識の習得や実践経験を継続していくことが必要だと思った。実践では、盲導犬連れのお客様の誘導をした。安心して楽しんでいたけりょう和らな声掛けを意識して対応したところ、要望を具体的に伝えてくださりコミュニケーションが大切だと感じた。

“音声ガイドの原稿作成のワークでは、自分が普段当たり前すぎて気にしていなかった視覚情報を言語化する難しさを感じた。視覚障害があるお客様にも、舞台鑑賞をより楽しんでもいただけるサービスについて職員同士で考える機会ともなった。現在は、話芸での観劇サポートが中心だが、演劇公演で音声ガイドだけでなく、開場前に俳優自身の声による役柄紹介やタッチツアー等を実施するなど、さらにサポート演目の拡充・充実・定着を目指したい。

あうるすぽっとでは主催公演を中心に観劇サポートを実施し、あらゆる来場者の観劇しやすさの向上を目指しています。

■ 設備について

車イス席

車イスのまま観劇できるスペースがあり、段差なくお席までご案内することができます。
チケットお求めの際にご希望をお知らせください。

多機能トイレ

車イスでもご利用いただける多機能トイレがあります。
2階、3階ともベビーチェアが設置されています。
3階には、おむつ交換台、オストメイト対応設備が設置されています。



楽屋内トイレ

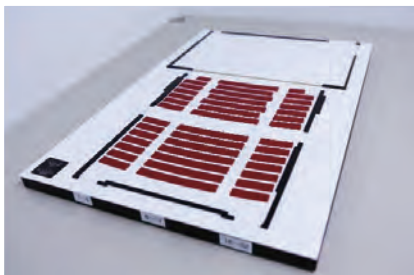
■ 公演におけるとりくみについて

受付での筆談器・手話通訳

劇場受付では、筆談器をご用意しています。
また、手話通訳による案内を実施する公演があります。

触れる客席図

座席の場所を触って確認していただくことができる模型をご用意しています。



触れる客席図

補助犬を伴っての観劇

事前のご連絡により、足下に余裕のある席をご案内しています。

駅からの送迎

ご希望の方には東京メトロ有楽町線「東池袋駅」からの送迎がご利用いただけます。

難聴者支援装置

事前のご連絡により、舞台音声を磁気ループ／骨伝導ヘッドフォンへ伝える携帯型赤外線受信機をご用意しています。



携帯型赤外線受信機

貸出台本

きこえない・きこえづらいお客様に向け、上演台本または再構成台本の貸出や、外国人来場者に向け、翻訳テキストの配布をする公演があります。

字幕・手話通訳

きこえない・きこえづらいお客様に向け、舞台上での字幕表示、舞台手話通訳を実施する公演があります。

音声ガイド

みえない・みえづらいお客様に向け、各種音声ガイドを実施する公演があります。

託児サービス

入場に年齢制限がある演目において、託児サービスを設定している公演があります。
※事前予約が必要です。

施設概要

施設名 豊島区立舞台芸術交流センター
愛称 あうるすぽっと
開館日 平成19（2007）年9月10日（月）
開館時間 9：00～22：00
休館日 年末年始（12月29日～1月3日）
その他 不定期月1回程度（メンテナンスのため）
所在地 東京都豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル2F・3F
床面積 2,931.19㎡（2階 1,702.90㎡、3階 1,228.29㎡）

劇場

劇場空間 ブラックボックスタイプ
客席数 301席
舞台 開口／幅10.9m（6間）×奥行10.9m（6間）
舞台全幅17.8m（約10間）スノコ／高さ9m（30尺）
客席 固定段床形式
吊物 美術バトン×17本（電動） ライトバトン×4本（電動）
調光卓 松下電工製パricosⅢ C音響調整卓 ヤマハ製PM1D×1式
ホワイエ 約280㎡（内カフェスペース約80㎡）
楽屋 楽屋1 約15㎡／4名
楽屋2 約15㎡／5名
楽屋3・4 約70㎡／15名
分割利用
楽屋3 約30㎡／6名 楽屋4 約40㎡／9名
※楽屋3・4は可動式のパーテーションで2室に仕切ることができます。

会議室

会議室A 60㎡／33名
会議室B 180㎡／110名
分割利用
会議室B1 70㎡／30名 会議室B2 85㎡／40名
※会議室Bは可動式のパーテーションで2室に仕切ることができます。



施設利用状況

劇場

	利用区分 (利用可能区分780)	公演数 / ステージ数	総入場者数	平均入場者数	客席稼働率
区利用	24	3 / 6	901	150	50%
主催事業	198	6 / 28	3,797	136	45%
財団利用	0	0	0	0	0
タイアップ	138	5 / 36	3,984	111	37%
区民団体	6	2 / 2	123	62	20%
一般貸出	264	8 / 72	7,061	98	33%
合計	630	24 / 144	15,866	総平均入場者数110	総平均客席稼働率37%
利用稼働率	81%	※客席稼働率301席にて算出。実際の客席設定は公演によって異なる。 ※客席50%にて実施は21公演。			

ホワイエ

利用可能日	260	※ホワイエ展示中止
一般公開日	0	
準備・公演来場者のみ公開日	3	
計	3	
利用率	1%	
一般公開来場者数	263	
平均入場者数 (一般公開来場者数 / 日)	1	

会議室

利用区分	A会議室①	B会議室② (B1・B2同時利用)	B1会議室③ (単独利用)	B2会議室④ (単独利用)
利用可能区分数	781	781	781	781
自主・区利用	115	175	20	33
貸出	181	45	23	62
利用区分件数	296※	220	43	95
利用稼働率	38%	28%	6%	12%
※5・6月は貸出停止			②+③の件数 263※	②+④の件数 315※
			②+③の稼働率 34%	②+④の稼働率 40%

累計利用可能区分数 (①+③+④合計)	2,343
累計利用区分件数 (※合計)	874
全体利用稼働率	37%

令和2年度 事業内容

○舞台芸術の創造普及事業

主催公演事業 プロデュース公演事業
共催公演（2020/2021 あうるすぽっとタイアップ公演シリーズ）事業
教育普及活動事業（ワークショップ・レクチャー等の事業の開催）

○施設管理事業

劇場・会議室の貸出・管理・運営

ワークショップ・レクチャー

事業数	回数	参加者数
2	17	231

展示

事業数	回数	参加者数
2	9	9,478



編集・発行：公益財団法人としま未来文化財団（あうるすぽっと）

デザイン・レイアウト：小見大輔

劇場・ホワイエ撮影：飯野高拓

印刷：株式会社ソーネット

禁無断転載